



本間光丘
木像



光丘書簡



奈良屋権兵衛より
古手代六百両請取覚

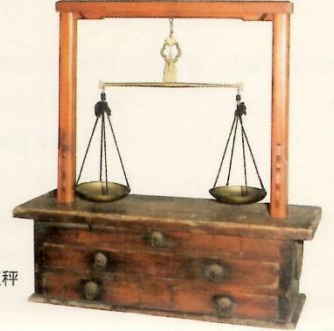
- 奈良屋権兵衛より古手代金……………1通……………個人蔵
- 酒田三十六人御用帳……………2冊……………個人蔵
- 上本町地割絵図(久四郎原光時代)…1枚…個人蔵
- 粟島沿岸警備金調達の依頼書…1簡……………個人蔵
- 荻戸善政書状(寛政9年)……………1通……………個人蔵
- 藩廳へ献金願書……………1巻……………個人蔵
- 寸志金御願書……………1通……………個人蔵
- 本間光丘書簡……………3通……………個人蔵
- 本間光丘像……………1軀……………個人蔵

出羽の豪商 本間光丘



▼本間家旧本邸

- 尾関家系図・系図書……………2冊……………個人蔵
- 本間光丘書簡・尾関又兵衛宛……………1軸……………個人蔵
- 尾関本立画「天満宮」嘉永6年……………1軸……………個人蔵
- 諸方貸方調上帳……………1冊……………鶴岡市立図書館
- 某藩借財年賦返済の書状……………鶴岡市立図書館



両替用天秤



乗行商箱



復元された辰悦丸

司馬遼太郎著『菜の花の沖』



高田屋嘉兵衛像(函館市)

高田屋手船中と彫まわいて日和山の常夜灯



『菜の花の沖』の主人公 高田屋嘉兵衛 海の豪商

- 天秤……………5秤
- 両替用天秤……………1秤
- ノロパン……………5点
- 鶴亀松宝見立……………4枚
- 腰碇……………1枚
- 知工筆筒……………1枚
- 帳場筆筒……………2枚
- 酒田市立資料館
- 取立帳……………4帖
- 先薬附取立帳……………4帖
- 乗行商箱……………4荷
- 蝦夷国絵図……………個人蔵
- 酒井侯御安堵祝賀の図……………個人蔵

【期間】平成13年7月5日(木)～9月16日(日) 【開館時間】午前9時～午後4時30分 【入館料】大人100円、児童生徒50円 (65歳以上の方と身体障害者の方は無料)



酒田の豪商展

第116回 企画展
本間光丘メモリアル200事業



酒田内町本町通りの賑わいを描いた 雲道絵景

■自由都市・酒田／豪商の活躍と繁栄

開催にあたって

米の集散地として発展してきた酒田湊は、戦国時代以降、交易や日本海警備、城米の輸送、軍船の調達などに重要な役割を果し、日本海有数の湊町として繁栄してきました。

この酒田湊の発展に大きな役割を果たしたのが酒田36人衆であり、彼らは千石船や川舟を駆使して日本海や最上川を縦横に往来し、北陸、関西、関東方面や内陸との物資交易を行い、また、自由都市としての酒田の自治も担ってきました。

今回の企画展「酒田の豪商展」では、最上義光の御用商人をつとめ、自ら海船を持って交易した『粕谷家』、日本永代蔵に「北の国一番の米の買入惣左衛門」と紹介された大問屋『鏡屋家』、金融資本家であり、大地主でもあった出羽の豪商『本間光丘』、司馬遼太郎著『菜の花の沖』の主人公であり、北方貿易で財をなした『海の豪商高田屋嘉兵衛』を取りあげ、その活躍と繁栄を振り返り、業績を偲びたいと思います。

この企画にあたり、本間家、粕谷家、鏡屋家、尾関家をはじめ多くの方々のご協力をいただいたことに感謝申し上げます。

奥州藤原氏ゆかりの地『酒田』

徳尼公伝説と

文治5年(1189)平泉没落の際、藤原秀衡の遺臣三十六騎が一女性を守って秋田を経て庄内に入り、立谷沢(立川町)の山中に隠れた。この女性は秀衡の「泉の方」で徳子とか、徳の前または徳尼公など言われている。ところが、まもなく頼朝が土肥実平を奉行として、羽黒に黄金堂を建立することになったので危険を感じた徳尼は、飯森山(酒田市)近くの袖浦の地に逃れた。

徳尼は、飯森山南西泉流寺林の草庵に住み、由良沖からあがった薬師如来を守本尊とし日夜由良の薬師とあがめ、身を仏門に帰依した。草庵を泉流庵といつた。酒田も又、泉流庵周辺に住み、徳尼は高才に富んでいたため、三十六騎に海船を持たせ商売をさせたといふ。

建保5年(1217)4月15日薬師如来の前で読経ののち亡くなったと伝えられる。諡を「東院殿水庵泉龍徳尼和尚」と言う。遺言により薬師を高野浜に移し、「酒田湊の薬師」としてあがめられ、のちに上山に安置されて現在も祀られている。



泉流寺に伝えられる徳尼公像

酒田三十六人衆

平成4年、酒田は「開港500年」を迎えた。往時、藤原清衡が中尊寺を造った平泉と京都を結ぶ玄関口としてにぎわったといわれる。

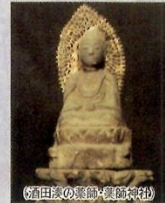
その後、江戸時代、西回り航路が開拓されてからは、日本海と最上川の出会う河口湊を拠点に、日本海海運の要衝として「西の堺、東の酒田」と称されるほど繁栄を極めた。

港街、酒田市の歴史は「酒田三十六人衆」の活躍を抜きにしては語れない。酒田に自治開港都市を築き、北方航路の拠点として発展させた。この三十六人衆こそ徳尼を守って平泉から落ち延びてきた藤原氏の遺臣だったと伝える。

尼を守護してきたその後、地持となり力を合わせて町づくりをし、その子孫は三十六人衆として町政の一端を握り、自治自衛の伝統を受け継いでゆく。

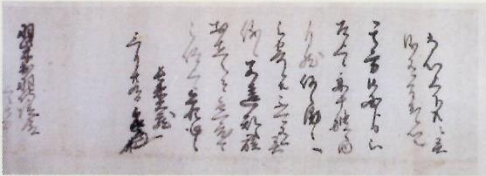


泉流寺(徳尼公廟)



酒田家の薬師(泉流庵)

■大航海時代における豪商粕谷家の活動



二木文書「過所」



世界地図 1587年(天正15年)複製



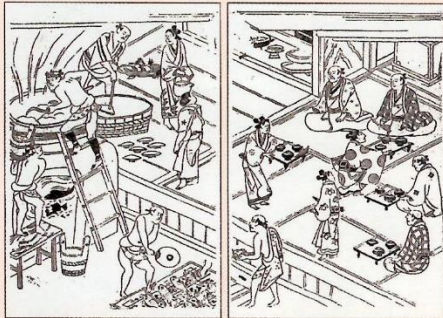
南蛮船絵馬



粕谷家守袋

- 粕谷家日記……………1帖
- 公用書留(天正15年から天明3年まで)…1帖
- 文化10年蝦夷地ヲロシヤ来航ニ付先触…1帖
- 文化10年横木株人々名前調帳……………1帖
- 菊川和泉1件ニ付願書指上候扣……………1帖
- 文政11年無尽帳……………1帖
- 卸町献上之覚他覚書……………1帖
- 弘化3年御領所御出役宿申諸扣……………1通
- 文久3年横木挽貨増願書……………1帖
- 慶応4年日向親好軍中日記……………1帖
- 明治元年諸御用記 粕谷義親……………1帖
- 胸当 家紋入……………1枚
- 鉢巻 家紋入……………1頭
- 守袋 家紋入……………1個
- 二木文書「過所」 本間美術館蔵……………1簡
- 永田家文書 酒田市立資料館蔵……………1巻
- 世界地図(オルテリウス作)1587年(天正15年)…1枚

■『日本永代蔵』にみる鏡屋



井原西鶴「日本永代蔵」の鏡屋



鏡屋の帳場



鏡屋の土蔵



鏡屋で使用していた東講鑑札

- 「家之記」……………1冊
- 東講鑑札……………1枚
- 鏡屋印絆纏……………1領
- 編笠……………2笠
- 新庄御用書箱……………1箱
- 「日本永代蔵」井原西鶴 復刻

鶴岡市立図書館蔵

- 諸廻船法巻物……………1冊
- 廻船手形……………1枚
- 江戸・大坂米相場報告書……………1冊
- 米沢御用帳(文久3年)……………1冊
- 藩より酒田豪商へ才覚金依頼書類……………14点
- 御米蔵入預り手形(文化10、12年)……………1帖
- 酒田三十六人衆勤方規約書……………1帖